

スギ間伐材でのナメコ栽培試験について

森林資源の有効活用と木材利用の促進を図るために、スギの切捨て間伐による林地残材を利用したナメコ栽培(略して「スギナメコ」)の試験を開始したので報告します。

スギナメコ栽培は平成15年度から旧湯田町で試験的に実施され、一定の成果が得られているものの、栽培実績が少なく、原木や栽培条件など不明な点が多い状況にあります。

今回の試験では3種類のスギ林地残材(伐採直後、伐採後1ヶ月、伐採後1年)にナメコ駒菌を植菌し、発生状況を調査することとした。

試験地は北上市稲瀬町の市有林内で、湿度の多い沢地を選定しました。

原木は、伐採直後のものを20本、伐採後林内で1ヶ月間放置したものを20本、同様に1年間放置したものを10本の計50本用意し、それらにナメコ駒菌を植菌しました。(4月17日、20日)

今後、ナメコ菌糸の伸長状況を確認しながら本伏せを行う予定です。

またこの試験とは別に、北上市黒岩地区において黒岩地区自治振興会が県民参加の森林づくり促進事業を活用してスギ間伐材400本にナメコ植菌を実施していることから、本試験とあわせて経過を観察したいと考えています。

地域の林業座談会で森林所有者の注目を集めている「スギナメコ」栽培ですが、その収量は最適樹種のブナやサクラに比べるとかなり少なく、スギナメコだけで商売になるわけではありません。

しかし、ただ捨てていた間伐材から価値(ナメコ)を生み出すことができれば、森林所有者の目を森林に向けるきっかけになると思うので、今後も試験の経過状況を報告しようと考えています。



植菌作業



試験地